議事日程第6号

令和6年9月25日(水)

- 第1 議案上程(議案第58号から第70号まで)
委員長報告(教育厚生、予算特別、決算特別)
質疑、討論、表決
-

本日の会議に付した事件

- 第1 は議事日程に同じ
- 第2 議案上程(議案第71号)
提案理由の説明(市長)、議案説明、質疑、委員会付託省略、討論、表決
- 第3 議案上程(議案第72号及び第73号)
提案理由の説明(市長)、質疑、委員会付託省略、討論、表決
- 第4 議会案上程(議会案第18号)
提案理由の説明及び質疑並びに委員会付託省略、討論、表決
- 第5 議員派遣の件
-

出席議員(15人)

1番 吉田清孝	2番 古仲清尚	3番 鈴木元章
4番 安田健次郎	5番 吉田洋平	6番 蓬田司
7番 船木正博	8番 佐藤誠	9番 畠山富勝
10番 進藤優子	12番 太田穰	13番 三浦利通
14番 小野肇	15番 田井博之	16番 小松穂積

欠席議員(1名)

11番 笹川圭光

議会事務局職員出席者

事務局 長 沼田弘史
副事務局 長 濱野美紀子

主 席 主 査 中 川 祐 司
主 事 菅 原 優 美

地方自治法第121条による出席者

市 長	菅 原 広 二	副 市 長	佐 藤 博
教 育 長	鈴 木 雅 彦	監 査 委 員	鈴 木 誠
総 務 企 画 部 長	鈴 木 健	地 域 づ くり 推 進 監 兼 防 災 監	八 端 隆 公
市 民 福 祉 部 長	田 村 力	観 光 文 化 ス ポ ー ツ 部 長	杉 本 一 也
産 業 建 設 部 長	湊 智 志	建 設 技 監	佐 藤 透
企 業 局 長	畠 山 隆 之	企 画 政 策 課 長	高 桑 淳
総 務 課 長	平 塚 敦 子	財 政 課 長	天 野 秀 一
福 祉 課 長	北 嶋 三 世	観 光 課 長	木 村 高 志
農 林 水 産 課 長	夏 井 大 助	病 院 事 務 局 長	原 田 徹
会 計 管 理 者	湊 留 美 子	教 育 総 務 課 長	村 井 千 鶴 子
学 校 教 育 課 長	笹 渕 美 穂	選 管 事 務 局 長	(総 務 課 長 併 任)
監 査 事 務 局 長	佐 藤 一 明	農 委 事 務 局 長	鎌 田 重 美
企 業 局 管 理 課 長	目 黒 一 人	ガ ス 上 下 水 道 課 長	斉 藤 清 彦

午後 2時15分 開 議

○議長（小松穂積） これより、本日の会議を開きます。

笹川圭光議員から欠席の届出があります。

○議長（小松穂積） 本日の議事は、議事日程第6号をもって進めます。

日程第1 議案第58号から第70号までを一括上程

○議長（小松穂積） 日程第1、議案第58号から第70号までを一括して議題といたします。

この際、委員会における審査の経過並びに結果について、各委員長の報告を求めることにいたします。

最初に、教育厚生委員長の報告を求めます。8番佐藤誠委員長

【教育厚生委員長 佐藤誠 登壇】

○教育厚生委員長（佐藤誠） 教育厚生委員会に付託になりました議案について、審査の経過と結果を御報告いたします。

初めに、議案第63号男鹿市印鑑条例の一部を改正する条例についてであります。

本議案は、印鑑登録証明書について、コンビニエンスストア等での交付を可能とするため、本条例の一部を改正するものであります。

本案については、異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第64号男鹿市手数料条例の一部を改正する条例についてであります。

本議案は、個人番号カード等を利用する各種証明書の交付申請制度の導入に伴い、交付手数料を改定するため、本条例の一部を改正するものであります。

本案については、異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第65号男鹿市国民健康保険条例の一部を改正する条例についてであります。

本議案は、国民健康保険法の一部改正に伴い、条項を引用する関係条文を整理するため、本条例の一部を改正するものであります。

本案については、異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第66号男鹿市斎場条例の一部を改正する条例についてであります。

本議案は、男鹿市斎場大規模改修に伴い、斎場使用料の料金体系を改めるため、本条例の一部を改正するもので、当局から、使用料については、定住施策、住民サービスの一つとして本市住民を無料とし、本市住民以外は近隣自治体と同程度に引き上げる。本条例改正により予測される歳入の減少額は約356万円である。との説明がありました。

本案について、第1点として、委員より、本提案に至るまでの協議状況について質疑があり、当局から、大規模改修に伴う汚物炉の廃止による料金表の改定と合わせて、使用料の見直しについての課内協議を令和5年12月から始め、令和5年度内には部内での方向性を定めた。その後、令和6年4月に市長・副市長も交えた協議を開始し、様々な意見が出ながらも、最終的に7月29日の庁議で決定されたものである。との答弁がありました。

さらに委員より、料金改定という大きな変更を年度途中に実施するのはなぜか。これまでに市民から要望もなかった無料化を急いで実施する理由について質疑があり、当局から、汚物炉の廃止に伴い、使用料の改定は必須であった。その改定の程度については他自治体の状況を調査し、検討を重ねた上で決定した。工事終了後、11月には通常の火葬体制に戻ることに、さらには移住対策や少子化対策など、市としてこれまで実施してきた様々な事業の対象になっていない方々を含めた、本市の全ての住民に届く事業をいち早く実施したいという考えから、このたびの提案に至ったものである。との答弁がありました。

第2点として、委員より、今般の大規模改修工事費も含めた斎場の維持管理費から算出される、斎場使用料1件当たりの原価について質疑があり、当局から、今後30年間継続運営する場合にかかる費用として、大規模改修工事費に加え、指定管理料、火葬炉保守点検費用のほか、今後の市の人口減少率を加味した使用料収入額から算出される1件当たりの原価は約7万3,000円である。との答弁がありました。

さらに委員より、現行使用料を徴収した場合でも原価から差引き約6万円強の住民サービスを提供していることになる。加えて、人口減少問題に直面する本市の財政状

況からすると、年間約356万円もの歳入の減少は慎重にならざるを得ない。船越こども園の整備をはじめとした多額の支出も抱える中、限られた予算の使い道として妥当なものか。との質疑があり、当局から、減収する歳入は決して小さな額ではないが、1人が複数回利用することはない斎場という施設の性質上、受益者負担ではなく住民福祉サービスの提供であると考えている。また、金銭的な面からすると、斎場の運営・維持管理に係る費用については一般財源、つまりは市民の皆様からいただいた税金を投入しているということであり、皆様から毎年確実に御負担いただいているという考え方もできる。だびに付される際、御遺族の方々には費用の負担なく安心してお見送りいただきたいという思いも込められた事業である。との答弁がありました。

第3点として、委員より、市の財政状況や将来を見据えた際、斎場使用料の無料化は果たして他の事業よりも優先されるべきものか、また、市民の幸福度や定住意欲の向上に資するものか疑問に感じるが、当局としてどのように考えているか。との質疑があり、当局から、少子高齢化、人口減少下における市の財政運営は、将来的にますます厳しい状況になることが予想されるが、そのような中であっても、不断の見直しを行いながら必要な施策を講じる必要があると考えている。また、住みやすさや幸福度は様々な事業や事柄との組み合わせ・積み重ねをもって向上が図られるものであり、斎場の無料化についても、他の事業と比較した中で優先されたものではなく、今住んでいる方たちを大切に考え、「男鹿市に住んでよかった」と思える地域づくりを目指した、市をよりよくしていくための総合的な施策のうちの一つと捉えている。との答弁がありました。

これらの議論を経て、委員より、本市住民の斎場使用料の無料化については、市民にとって喜ばしい事業であることは間違いない。しかしながら、市の歳入減少分をどう補っていくのか、また、これまで要望がありながらも、いまだ解決に至っていない課題があることをしっかりと考慮した上で、今後の市政運営・財政運営に取り組んでいっていただきたい。との意見がありました。

以上の審査経過により、本案については、異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第67号男鹿市保育園条例の一部を改正する条例についてであります。

本議案は、令和7年4月1日から保育所型認定こども園「船越こども園」及び小規

模保育事業所「わかみベビー園」を開園することに伴い、各保育園の名称及び位置を定めるほか、所要の改正を行うため、本条例の一部を改正するもので、当局から、「船川保育園」という名称を「船川こども園」に変更するほか、定員については条例から削除し、規則で定めることとする。定員の削除について、児童の減少により、実際の児童数は現行条例で定める定員から大きく乖離している状況にある。また、他市町村から広域入所を受け入れた際の給付費は、定員の少ないほうが単価が高く設定されており、県の指導監査においても改正するよう指導を受けていたことから、条例ではなく規則に定めることで適正な運用を図るものである。との説明がありました。

本案について、第1点として、委員より、定員の再設定に伴う単価の上昇によって、広域入所の受入れに際し、他市町村からの入所児童が減ってしまうということはないか。との質疑があり、当局から、広域入所であっても、利用者が負担する保育料は世帯所得等に応じて居住自治体が定めるものであることから、単価上昇による利用者への影響はない。本来よりも低い単価で他市町村から広域入所を受託している現行から、定員を見直すことで、適正な給付費を受け取ることができるよう改善されるものである。との答弁がありました。

第2点として、委員より、「わかみベビー園」という名称にした理由について質疑があり、当局から、各園から候補を募った上で男鹿保育会と協議を行い、最終的に市で決定したもので、ゼロ歳児から2歳児までの子供が入る園であること、地域名である「若美」を残したいという思いからこの名称としたものである。との答弁がありました。

以上の審査経過により、本案については、異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第68号秋田県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更についてであります。

本議案は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部改正による被保険者証の廃止に伴い、秋田県後期高齢者医療広域連合規約の変更について、関係地方公共団体と協議する必要性が生じたので、議会の議決を求めるものであります。

本案については、異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

す。

以上で教育厚生委員会の報告を終わります。

○議長（小松穂積） 次に、予算特別委員長の報告を求めます。2番古仲清尚委員長

【予算特別委員長 古仲清尚 登壇】

○予算特別委員長（古仲清尚） 予算特別委員会に付託になりました議案第69号令和6年度男鹿市一般会計補正予算（第4号）及び議案第70号令和6年度男鹿市上水道事業会計補正予算（第1号）について、審査の経過と結果を御報告申し上げます。

本委員会は、去る10日に開会し、正副委員長互選の後、各予算について補足説明を受け、質疑を行いました。

この際、その予算の内容については省略させていただき、質疑されました主な点についてのみ御報告申し上げます。

第1点は、男鹿市斎場大規模改修事業及び斎場の利用料金見直し等についてであります。

一つとして、令和5年度から2か年にわたり斎場大規模改修事業が行われている本事業の進捗状況について。また、携帯電話の通信設備工事の実施による今後の通信状況の見通しについて。

二つとして、汚物炉が撤去されたことに伴う、医療汚物の処分、汚物処理に対しての、市の考えについて。

三つとして、男鹿市民の斎場利用料金無料化に伴う歳入の減少予想額356万円は、市の一般財源による財政負担であり、無料化には検討が必要であると考えているが、市の考え方について。また、斎場の建屋改修に伴う機能面の向上と併せて、飲食物等の対応など、利用者へのサービス向上を図るとともに、施設自らが稼ぐことを検討すべきではないかと考えるが、市の考え方について。

四つとして、大規模改修事業について、市議会・教育厚生委員会の中でも、歳出の抑制や削減に向けた議論を重ねてきた経緯があるが、男鹿市民の斎場利用料金無料化に当たって、これまでの計画との整合性など、市の考えについて。

五つとして、近隣の市町村とは、各分野で広域行政に係る積極的な連携の動きが出ている中で、市外利用者の斎場利用料を大幅に引き上げた際の影響の可能性など、市の考えについて。

次に、第2点として、晩秋・冬季誘客強化事業のうち、JR東日本冬季誘客キャンペーン連携事業について、その連携の内容や事業主体について。また、本事業で様々な連携事業を展開することによる、入込客数や市内経済への見込みについて。さらに、「なまはげラッピング列車」におけるデザインの方向性など、当該事業の狙いについて。

第3点として、チャットGPT等の生成AIの普及、活用が進んでいる中で、本市における業務上の利活用に対する考え方及び今後の方向性について。

第4点として、(仮称)男鹿中いりあい風力発電事業について、事業用地には男鹿市有地も含まれていることへの、今後の市の対応について。また、本事業により、自然環境への悪影響や健康被害等を心配する声が聞かれている中で、滝の頭水源や最終処分場も近隣に所在している中で、市としての環境影響評価や対策の考えについて。一方で、風力発電事業は、固定資産税の増収や雇用の創出など、経済的な効果があるとされるが、これらの経済的利益がどの程度、市の発展に寄与するのか。また、経済的メリットと、市民からの反対意見や懸念等を、どのようにしてバランスしていくかについて。

第5点として、男鹿駅前広場とオガーレ間に新たに横断歩道が設置されたことに伴い、市として、警備員の配置など安全対策への考えについて。

第6点として、今回、若美学校給食センター調理等業務の債務負担行為設定における、民間業者へ委託することに対する本市の基本的な考え方や、学校給食における「食の安全」及び有機食材の活用に向けた考え方について。

第7点として、情報資産管理体制強化事業を補正予算計上するに当たって、国によるDXの推進を注力している中で、補助金などの活用の見込みについて。また、行政のデジタル化が進められている状況の下、様々なシステムやソフトウェアが導入され、市職員も対応していく必要がある中、職員の負担増加や働きづらさなどが生じていないか、労働環境の現状について。

第8点として、「地域活性化起業人(企業派遣型)受入事業」について、業務内容には市民のデジタルデバインド対策、市職員の研修等とあるが、今回、国の事業を活用して事業化した目的や、具体的な業務内容について。また、派遣元の企業では、廃校舎を活用した事業を行っているが、本市でも廃校の利活用を進めていく中、このよう

な事業を実施するのか、具体的な計画や目的等について。

第9点として、今回、男鹿北線スクールバス及び払戸線スクールバスの運行業務に係る債務負担行為が設定され、合わせて5路線の運行を民間事業者へ委託するとあるが、運転士の確保や、その見通し、及び、債務負担行為の設定期間が男鹿北線で5年間、払戸線では2年間と異なる理由について。また、スクールバスへの住民混乗について、これまで「男鹿北線スクールバス」において混乗の実績はないが、今後の混乗の在り方について。

第10点として、観光客が本市を訪れる場合、首都圏をはじめ、都市部からのアクセスが不利である中、運送における2024年問題により、男鹿市への滞在時間にも影響が生じており、教育旅行においてもゆっくりと滞在できる環境づくりを図るため、バス事業者に対する補助制度の拡充等を県に対し要望するなど、働きかけるべきではないか。また、教育旅行が本市を訪れるシーズンは、市道なまはげラインをはじめ、バスが往来する道路沿いにオオイタドリなどの植物が生い茂り、観光バスにも接触するなどの支障が生じているため、草刈りの時期を調整するなど対策が必要であり、道路法面の支障木については、除雪のように一定区間を設けて業者に伐採を委託するなどの施策が効果的であると思われるが、市の考えについて。

第11点として、上水道事業会計補正予算（第1号）において、滝の頭かんがいため池の修繕費が計上されているが、水源の管理に係る予算として、一般会計からの繰入れの有無について。などの質疑に対し、当局からそれぞれ答弁があったものであります。

本委員会においては、なお詳細に審査するため、常任委員会ごとによる分科会を設置し、審査したものであります。

各分科会とも全ての審査を終了しましたので、先ほど委員会を再開し、各分科会委員長から詳細な報告があったものであります。

以上の審査経過により、本委員会に付託されました議案第69号令和6年度男鹿市一般会計補正予算（第4号）及び議案第70号令和6年度男鹿市上水道事業会計補正予算（第1号）については、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

以上で予算特別委員会の報告を終わります。

○議長（小松穂積） 次に、決算特別委員長の報告を求めます。14番小野肇委員長

【決算特別委員長 小野肇 登壇】

○決算特別委員長（小野肇） 決算特別委員会に付託されました議案第58号令和5年度男鹿市一般会計歳入歳出決算の認定について及び議案第59号から議案第62号までの令和5年度男鹿市各特別会計歳入歳出決算の認定について、審査の経過と結果について御報告申し上げます。

本委員会は、去る12日に開会し、正副委員長互選の後、会計管理者から一般会計及び各特別会計に係る補足説明とともに、監査委員から決算審査における総括意見を受け、審査を行いました。

この際、その決算の概要については省略させていただき、質疑されました主な点について御報告申し上げます。

第1点として、人口減少対策に係る施策の展開及び課題について、

一つとして、結婚トータルサポート事業について、令和5年度に実施した「秋の婚活イベント」の参加者数は、男性6人、女性7人と低調な結果であり、「結婚新生活支援事業」による補助件数は6世帯にとどまっている。この状況からは、実質的な少子化対策としての効果に疑問があると思われるが、市としてはこれらの施策をどのように評価しているのか。また、婚活イベントの参加者や効果が低い要因や、今後の対策について。

二つとして、妊娠・出産・育児包括支援事業の実効性について、様々な事業を包括的に展開しているが、現在、少子化の流れを食い止めることができていない。支援の内容などが現実のニーズに十分対応していないのではないかと考えられるが、市民からの、これらの事業の利用に係るフィードバックを基にした施策の見直しは行われているのか。

三つとして、現在、移住・定住の促進を図るため、各種事業を実施しているが、これらの事業展開が実際にどれだけ移住・定住の実績に結びついているのか、具体的な成果について。

四つとして、人口減少対策として様々な事業が展開されている中で、費用対効果の観点から、成果が伴わない事業については、継続の是非を含めた見直しが必要と考えるが、現在の具体的な評価基準や見直しのプロセスについて。

五つとして、人口減少問題では、働く場所、雇用の確保が非常に重要であるが、本

市において、農林水産や観光等の産業を育成しなければ、人口増にはつながっていかないと考えられるが、これらの産業で生計を立てようという者に対する支援等、新たな展開に対する考え方について。

第2点として、歳入の中で市税のうち、固定資産税の不納欠損にかかる主な理由等について。

第3点として、保育園の指定管理料において4,800万円以上の不用額が生じた要因や、船越こども園の開園を控えている中、今後の指定管理料はどのように推移していくのかについて。また、市職員の保育士と男鹿保育会の保育士の間においては、待遇面等において乖離があるように思われるが、いつ頃この状況が解消されるのか、その見通しについて。

第4点として、トイレの清掃業務などの継続的に外部に委託している業務に関する発注、契約に至るまでのプロセスや、業務に対するチェック及び検収の体制について。

第5点として、人口減少が進む中で、消防団員も全体的に減少傾向にあり、各分団においても定数や編成の在り方など、市の現状を踏まえて変えていく必要があるが、今後の市の方針について。

第6点として、市が補助金を支出して運営されるスポーツ大会等、各種イベントの実行委員会の事務について、監査における指摘等により変更されている部分があるが、各実行委員会が自主性を持ち決算報告や監査を実施している中、市の監査委員はどこまで関与するべきであると認識しているのかについて。

第7点として、秋田中央地域地場産品活用促進協議会負担金として603万833円支出しているが、実際に地場産品の活用促進事業として年間を通しての活動内容と実績等について。

第8点として、男鹿駅周辺広場の指定管理について、イベントなどが数多く開催され、集客面で大変力になっていると感じるが、指定管理料の支出に当たり、管理者サイドでは経費の削減に努めているのか。また、イベント以外での平日などの男鹿駅周辺広場での活動に対し、市としてどう評価しているか。また、屋外施設であるという性質上、天候に左右されるなど、運営しづらい部分が課題であるとの意見があるが、追加の整備を考えているのか、現状のまま進めていくのか、市の考え方について。

第9点として、市では、公式LINEで道路状況の不具合を通報できる取組を行っているが、市が情報提供を受けるだけでなく、対応結果を回答するなど双方向でやり取りできる体制が必要ではないかと考えるが、市の認識について。

第10点として、男鹿市国民健康保険特別会計において、保険給付費に係る支出済額が前年度と比較し相当減少していることや、国民健康保険財政調整基金の年度末現在高が3億7,439万6,000円であること等から、国民健康保険税の税率をもう少し引き下げることが可能であると思われるが、市の考え方について。

第11点として、介護保険特別会計の歳入のうち、第1号被保険者保険料において、普通徴収に係る未納額があるが、介護保険料は高いという感覚が強いと思われる。決算の状況を見ると、さらなる保険料の引下げが可能であると思われるが、市の見解について。また、訪問介護の報酬の実質的な引下げにより、全国的に多くの事業所が倒産している状況であるが、本市における訪問介護の状況について。などの質疑があり、当局からそれぞれ答弁がありました。

以上の審査経過により、本委員会に付託されました議案第58号令和5年度男鹿市一般会計歳入歳出決算の認定について及び議案第59号から議案第62号までの令和5年度男鹿市各特別会計歳入歳出決算の認定については、原案のとおり認定すべきものと決した次第であります。

以上で報告を終わります。

○議長（小松穂積） これより各委員長に対する質疑を許します。質疑ありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、これを許します。4番安田健次郎議員

【4番 安田健次郎議員 登壇】

○4番（安田健次郎議員） 私からは、議案第65号男鹿市国民健康保険条例の一部を改正する条例について、反対の立場から討論に参加させていただきたいと思っております。

本議案は、虚偽の届出をした場合に罰則を科すとありますが、経過措置にあるように、12月2日からのマイナ保険証を前提としたものであり、現在の保険証では改正の必要もなく、議案質疑でも申し上げたとおり、マイナ保険証の実施は決して容認で

きかねるものであります。

第2に、現在進められているマイナ保険証の利用率は、7月時点ですけれども11.3パーセントの利用率であり、国民・市民の合意はまだ成り立っていないと考えるものであります。

第3に、全国医療機関で漢字が読み取れない件が67パーセント、カードリーダー接続認証エラーが52パーセント、資格情報無効が48パーセント、さらに、窓口負担で10割を請求されて悩む方もいた。そして有効期限切れが20パーセント、さらに電子証明の5年間の有効期限切れの受診のトラブルなどもあり、あまりにも欠陥が多く指摘されているわけであります。

第4に、前にも申し上げましたように、特定の障害者には、このマイナ保険証は利用しきれない欠陥があるわけであります。

第5番目ですけれども、国が進めている医療DX、デジタルトランスフォーメーションというそうでありますけれども、この巨大な個人情報をつくるためのものであり、マイナンバーカード同様で、個人のプライバシーを守る意義からも決して容認できないものであります。

最後は、60年もかけて築き上げてきた、この世界に誇れる国民皆保険は、ほとんど現在も問題もなく、国民全てが利用している現在の国民保険証は何ら変える必要はないと考えるものであります。

以上の理由で本条例の改正には反対するものであります。議員各位の御賛同を心からお願いを申し上げ、討論といたします。

○議長（小松穂積） 以上で通告による討論は終了いたしました。

ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

これより、ただいま討論がありました議案第65号男鹿市国民健康保険条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。本件は起立により採決いたします。本件に対する委員長の報告は可決であります。本件は、委員長の報告のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（小松穂積） 起立多数であります。よって、議案第65号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第58号から第64号まで及び議案第66号から第70号までを一括して採決いたします。

本12件に対する各委員長の報告は可決及び認定であります。本12件は、各委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、議案第58号から第64号まで及び議案第66号から第70号までについては、原案のとおり可決及び認定されました。

日程追加の件

○議長（小松穂積） 次に、お諮りいたします。ただいま市長より議案第71号が提出されました。この際、本件を日程に追加し、議題といたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、本件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

日程第2 議案第71号を上程

○議長（小松穂積） 日程第2、議案第71号財産の取得について（追認）を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。菅原市長

【市長 菅原広二 登壇】

○市長（菅原広二） ただいま議題となりました、議案第71号の財産の取得に係る追認議案の提出について、提案理由の御説明を申し上げます。

本議案は、議会の議決を経ずに、スクールバス2台の物品売買契約を締結したことについて、議会の追認を得ようとするものであります。

よろしく御審議の上、御可決賜りますようお願い申し上げます。

○議長（小松穂積） 次に、議案の説明を求めます。村井教育総務課長

【教育総務課長 村井千鶴子 登壇】

○教育総務課長（村井千鶴子） 議案第71号財産の取得に係る追認について、御説明申し上げます。

追加議案書の2ページをお開きください

議案第71号財産の取得の追認について。

本議案は、次の財産を取得したことについて、地方自治法第96条第1項第8号及び男鹿市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を求めるものであります。

地方自治法及び市条例では、予定価格2,000万円以上の財産を取得する場合は、議会の議決に付すよう定められております。

契約した物品は、スクールバス車両2台、マイクロバス29人乗り、2輪駆動車で、本年6月12日に予定価格2,374万7,900円で指名競争入札を実施いたしました。その結果、秋田市寺内字大小路207番地37、太平興業株式会社 秋田支店が2,090万円で落札しております。

予定価格が2,000万円を超えることから、議会の議決を得る必要がございましたが、議会の議決を得ないまま契約を締結していたことが判明し、現状では契約が無効とされることから、改めて追認の議決を賜りたく、議案として提案させていただくものであります。

このたびの追認議案については、事務処理を行うに当たり、関係法令等の認識を欠いていたことに起因したものであり、行政運営上あってはならないことで、深くおわび申し上げます。

今後の再発防止策としましては、財産取得に必要な議会の議決の要否を契約事務の初期段階から確認するなど、チェック体制の強化・徹底を図り、二度とこのようなことが起こらないように取組を進めてまいります。

以上で議案第71号の説明を終えさせていただきますが、御可決賜りますようお願い申し上げます。

○議長（小松穂積） これより質疑に入ります。質疑ありませんか。13番三浦議員

○13番（三浦利通議員） ただいま提案されております議案について若干、あまりこ

の種の議決内容というのは、まあ普通はあってはならない、ほとんど例のないことですが、まあ10年に1回ぐらいはあるかもしれませんが、今日の午前中に副市長のほうからも、代表者会議の場で、若干釈明なり、内容等の御説明がありました。あ、陳謝も含めて。それから、市長のほうからも、その後、予算特別委員会でありましたけれども、まず今、担当課長からお話がありましたけれども、職員としての事務的な取扱いにおいて、認識を欠いていたということがありました。

まず1点目として、具体的な市に及ぼす影響、さっき言ったように副市長の説明では、今回、この手続の不備によって、国からの補助600万から700万、要するに手続上瑕疵があったというようなことの原因で入ってこない可能性大だという話がありました。もう一つは、関連して、今日午前中からも担当所管の協議会やったり何なりして、福祉課の年金生活者支援給付金の取扱いの誤りで、これも700万ぐらい、あともう対象者から賦課、徴収等できないというような、ですから1,300万から1,400万ぐらいの、本来入ってくるべき収入が入ってこないというような、その穴が開いてしまったということです。

それと忘れてならないのは、市民の受け止め方、こういうふうな問題がたまたま運悪くして2件も起こったということは、やっぱり市の行政事務に対する不信感も含めて、信頼性を相当損なうことになってしまう。もしかして、この後、マスコミ等に来れば、しまうんでないかなど。これは非常にやっぱり市としても大きな損失になるんでないか。かつて、御案内のように元税務課長のああいう、もう大きな不祥事、大問題が起きましたけれども、あの際も、市民のやっぱり反応っていうのは、あと税金納めない、納めなくてもいいんでねえがって、こういうことばっかり起きれば、できればって、そういう反応が強くありました。その信頼をやっぱり修復するために相当の時間がかかったり、前の市長時代でありましたけれども、職員等も大変難儀を強いられたことはあったんでないかなど。その市民の信頼を損なうっていうことは、我々もやっぱり厳粛に受け止めなければいけないんでねえがなっていう気がします。

1点目は、その辺について、どう市長は今回受け止めているのか。

もう一つは、事務的なミスが発見ケース、まあ大きいか小さいかはなかなか判断難しいわけですが、先ほど来話していたように、ここ4年間の中で、副市長の報告では、令和3年4件、4年1件、5年3件、6年3件、11件。で、ある意味で

は、今の時代、かつてと違った行政事務の煩雑さっていうか、高度化っていうか、パソコン、ITもいろいろ入ってきた中で、そういう専門的な部分、知識等の対応が求められる。そういった意味では、なかなか容易にこう、全てがそうだとはいえませんが、従来と同じような比較、行政事務の関係では比較にならない時代になってきつつあるんでねえがなって気がします。

で、そういう中であって、この種の問題が起きれば、いつもトップが言うのは、「今後このようなことがないように対策を講じて、改善策を講じてまいります。」この種の発言をしてきましたが、結果としては、そうはならなかった。そうすれば、その対応策、改善策っていうのは本当に正しかったのか、適当であったのか、ベストであったのかっていうことを、やっぱりこの機会に検証する必要があるんでねえが。時代に合ったようなやっぱり事務対応の、どういうふうな従来と違った、そういう環境が違った部分に対する対応っていうのはどうあるべきかっていうことを、この後、真剣に考えていかなければいけないんでねえがなっていう気がします。

でも、本議題になっている2,000万円以上の議会の議決行為については、もう極めて、通常、担当課がたまたま今回は教育委員会ですけども、通常それぞれの所管課がそういう契約等の事前の事務手続を進めて、最終的に契約等の、入札して契約をするのは財政課だと思いますけども、ですから私から言わせると、財政課の課長はじめ、少なくとも幹部職員というのは、常にやっぱりこういう契約等においては一番分かっている知識、まあ経験は別だども、知識が豊富な、要するにプロフェッショナル。何でそういう人方が、片方ではそういう人方もチェック機能を果たすべき役割の職員がいるのに、何でこういうふうなことが起きたのか、何で見逃したのかって、そういうこともやっぱりこの機会に検証するべきで、私から言わせれば、ぼけっとしてんじゃねえよって。民間であれば相当厳しい処罰を食う可能性大です。その辺について、具体的なこの後の改善策をどうなさるのか。

今日の予算特別委員会の冒頭の市長の発言、私ちょっとメモしましたが、「改善策を講じているが、根絶できない状態だ」と。ですから、先ほど言ったように改善策というのは、ベターだかもしれないけれどもベストでなかったということがあろうかと思しますので、もう一回そういう部分の見直し等をやっぱりしていく必要があるんでねえが、そういう時代なんでねえがなっていう気がしますがけれども、その辺につい

て、まあ今日の段階で具体的にどういうふうなこういう改善策を講じていくのかっていうのは、まだ整理されておらないかもしれませんが、まあ市長なり、副市長あたりから、その辺の具体策、何点かお聞かせいただければと思います。

○議長（小松穂積） 佐藤副市長

【副市長 佐藤博 登壇】

○副市長（佐藤博） まずは、市長からも予算特別委員会で謝罪なり何なりありましたけれども、改めて私のほうからも、議会の最終日に不適切な事務処理案件、立て続けに御審議なり御協議をいただくというふうなことになってしまいまして、議員の皆様はじめ市民の皆様にも大変申し訳なく、改めておわび申し上げたいと思います。

今、三浦議員から御指摘ありましたように、不適切な事務処理については、これまでも年に数件発生いたしまして、そのたびに議会から厳しい御指摘を頂戴しまして、そしてまたそれに対し、職員一同、再発防止に取り組んできたつもりであります。個々の案件それぞれでございますけども、その原因をしっかりと見極めながら、それを潰しにかかるというふうなことで、間違っても同じ案件で2回失敗はしないようにというふうなことを繰り返しながらやってきたわけでございます。

ただ、いまだにこういう形でなくなるということはお指摘のとおり、果たしてそれが事務万般にわたって実効のある対策であったかとなると、やはり結果から見ればそうではなかった、不十分だと言わざるを得ないというふうに思っております。もちろん市役所が日々行っている事務は相当の量に上ります。気をつけていても、多分人間がやることですから、ヒューマンエラーといいますか、事務ミスというのは、これは起こる可能性っていうのは全部ゼロには多分できないんじゃないかなというふうに我々も思っております。ただ、そうした中であっても、特に今回のように議会の議決を経ずに、スクールバス、まあ物品の購入の契約を締結したと。この件については、まず自治体の職員たる者、初歩中の初歩のことでありまして、大変遺憾に思っております。議員の皆様から厳しい御指摘、御叱責を受けるのもごもつともでありまして、いうふうに思っております。私自身も、これ入札の契約に関わることでございますので、入札の指名審査委員会の委員長でもありますし、また事務事業を統括する副市長という立場からしても、非常にじくじたる思いでありまして、いま一度、職員一同ですね、肝に命じて、再発防止に取り組んでいかなければならないと思っております。

ごます。

何よりもやはりそこをしっかりとしないことには、いかなる事業、いかなる施策、例えば今回のいろいろと議論いただきました斎場の使用料の無料化につきましても、何だと、そんなことの前にと、しっかりとやることやってくれと言われかねない状況にあると思ってまして、これから男鹿市がいろんな市民との協働のまちづくりを進めていく上で、一番根底となる信頼感、そこを毀損すると、損なうということの初端になつては、これは決してならないというふうに思っております。

そうした中で、今回のこの案件を踏まえまして、この後、個別具体的にこれまでのとってきた対応が十分であったかどうかということ、議員からも御指摘ありましたように、いま一度検証しなければいけないと。とりあえず、今回2例、不適切な事例がありましたけども、1例目の案件につきましては、しっかりとその事務マニュアルを策定して、養護老人ホームの入居者の負担金ですね、負担金の算定の仕方について、誰がやっても、初めてその事務に携わる者がやっても、マニュアルどおりにやればしっかりとできるということ、をまずしっかりとやらなきゃいけないと思っております。それから、2件目の今議案になってございます、議会の議決を経ずに、しっかりと議決を経ずに売買契約を締結するという事は、これは工事契約ももちろんでございますけども、イロハのイでございますので、そこをしっかりと徹底するというふうなことを、まずは職員の自覚を促していくことが必要だろうと。ただ、前段申し上げましたように、さはさりながら、やはりミスは気をつけてても起こるんだと、人間のミスっていうのは必ず起こるんだということを前提にして、個人の資質なり自覚を上げるということはこれももちろん大事でございますけども、併せて組織全体として、組織としてそのミスをいち早く潰すと、気がつく、ダブルチェックでもって潰すというそうした組織としての防止対策について、いま一度、これまで取ってきた個別のそうした防止対策でなくて、組織全体としてこれからどうあるべきかということ、いま少しですね深く、この後、内部で検討して、議会の皆様にも取りまとめのものを報告しなければいけないというふうに思っております。

その検討に当たっては、今議員から御指摘ありましたように、これまでと同じような形ではなく、やはりこの世の中、様々な業務が非常に多岐にわたってございまして、それから新しい制度や既存の制度の改正が度々頻繁に行われます。で、それが単

純に法令、要綱、要領、条例でもって変わるだけでなく、それと要するにシステムですね、まあDX等までいかなくても様々なシステム改修が伴うということで、そちらのほうもしっかりと意を用いて、間違いはないかということ、よくよくこれも問題でございますので、そこら辺についてもやっぱり気を配っていかなきゃいけないと。もう少しお話しすれば、そうした個別の案件だけでなく、場合によっては、果たして今の職員なりの職務環境で、これでミスが防げるのかと。ちゃんと防げるような執務環境、執務環境というのは、この場の環境だけでなくですね、執行体制ですね、そうした体制についても、今の形でいいのかということまで少し考えを及びながら、はせながらですね、この後の対策を検討していかなければいけないかなと思ってございます。

改めて、ばたばたと目先の対策、個別の案件の対策だけでなく、少し広めにとってですね、事務事業全般にわたってこれからミスをできるだけ少しでもゼロに近づけるようにするためにはどうすればいいかということ、これまでの検証も踏まえて、幅広に、そして深めて少し庁内で検討して、皆様のほうにも取りまとめ次第、御意見を伺う機会を設けたいと思ってございます。よろしく申し上げます。

○議長（小松穂積） 再質疑ありませんか。13番三浦議員

○13番（三浦利通議員） 今、副市長のほうからも、協働という言葉もありましたけれども、ふだん菅原市長もよく、役所全体が連携をして、やっぱり様々な事務作業、まちづくりに汗を流していくっていうような、そういう考え方を主張しておりますけれども、まずその部分では、まあ今回の事例だけで言うのはなんですけれども、まだ道半ばなんでねえがなっている気がしますので、まあ何だかんだ言っても、やっぱり男鹿市全体のまちづくりの中で職員の果たす役割っていうのは大きいのは言わずもがなですので、まあその辺をもう一回肝に入れて、さらには我々も市民を代表するチェック機関として、いろんな機会に様々な提言、意見等も申し述べていくような姿勢でやっていきたいと思っております。終わります。

○市長（菅原広二） 議長

○13番（三浦利通議員） 市長からその辺についてお聞かせください。

○議長（小松穂積） 菅原市長

【市長 菅原広二 登壇】

○市長（菅原広二） 本当いろいろ御心配をおかけしてます。なかなか進まない、そのことを反省しながら、もう一度スタート、リセットしてね、頑張っていきたいと思ってます。

福祉課の事案に対しては、具体的な話はるるされましたけども、やっぱりフラットな組織をつくっていくと。上司と部下と、いろんなことを忌憚なく話していけるような、そういう雰囲気をつくっていくと。そしてまた、今の教育委員会の事案に対しても同じで、一人一人が経営者として、ほかの部門のことも気にしながら、そういうのを見ていくと、そういうことが大事だと思ってます。そしてまた、私がいつも言うように、大きな観点から言えば、いかに市民を幸せにするかと。公務員っていうのは、いかに市民を幸せにするかと、そういうサービスを提供していくんだと、そういう気持ちが大それたと思えますから、その根底にやっぱり高いモチベーションを持って、理念を持ってやっていくことが大事だと思ってますから、そういうことを朝礼なりコンパなりを通じて、職員の研修を私ももっとやっていきたいと思ってますから、そういうことを通じて意識改革を、職員と共に市の幹部、私も含めて何とか改善していきたいと思えますから、よろしく御指導ください。すみませんでした。

○議長（小松穂積） 13番三浦利通議員の質疑を終結いたします。

○13番（三浦利通議員） はい、終わります。

○議長（小松穂積） ほかに質疑ありませんか。14番小野議員の発言を許します。

○14番（小野肇議員） ちょっと疑問点ありますので、お聞きしたいと思えます。

まず老人ホームの件でございますけども、本年7月から正当な徴収額に改めたというところで・・・

○議長（小松穂積） ちょっとお待ちください。今、議案は教育委員会のほうですから。

○14番（小野肇議員） あ、申し訳ないです。教育委員会のほうからお聞きいたします。

教育総務課から上がったものが財政課のほうへ行くと思うんですけども、この間いろいろなチェックする過程で、大きな委員会なり、それなり、いろいろあると思うんですけども、何回そのチェックができる体制があったのか。例えば起工が上がるとか契約するとか、いろんなことあると思えますけども、その都度その都度チェックがで

きると思うんですけども、何回そのチェックができるような回数があったのか。ひとつそこをまずお聞きしたいのと、それと、市長、副市長の答弁の中で、市の全体的な職員の職場の在り方というか仕事の在り方というお話でございましたけども、私、職員の経験というところからいきますと、どっかで誰かが気づくと思うんですよ。「おい、これあれでねえが、議会に上げないといけないからちゃんとチェックしておけよ」とか、「ここあれでねえが、ちょっとやむやなってるから、ちょっと調べておいてくれよ」とかって、誰かがどこかでそのことを進言するような方がいたと思うんですよ。で、今回それが全然なかった、ノーチェックみたいな感じだったのか、それとも任せ切っさりだったのかというところもあると思いますけども、その職場のコミュニケーションというところが、今現在のこの男鹿市役所の中っていうのは一体どういうふうになっているのか、ちょっとそこ疑問がひとつあります。昨年4月の人事異動のときもお話しましたが、いろいろな部署のところいろいろ経験してもらって、スペシャリストになってもらいたいというような答弁ありましたけども、ある意味、まあスペシャリストっていうのはそこにいて改めてスペシャリストになると思うので、その人事の動かし方っていうのが、何か職員に対して負担になるんじゃないかなっていうところも、今回のこの不祥事の中でちょっと私感じましたので、その辺のところひとつお聞きしたいと思います。

それと、先ほど議長のほうから、老人ホームのことでありましたけども、ちょっと質問してよろしいでしょうか、少しだけ。

○議長（小松穂積） いや、それはちょっと案件外ですので。

○14番（小野肇議員） ああ、そうですか。

○議長（小松穂積） はい。

○14番（小野肇議員） 分かり、まあ7月にやったということから、なぜ今回だったのか。何回も議会あったので、その辺ちょっと疑問だったんですけども、ちょっと教えていただけないでしょうか。

○議長（小松穂積） 鈴木総務企画部長

【総務企画部長 鈴木健 登壇】

○総務企画部長（鈴木健） 私からは、今回契約に至るまでチェック何回あるのかという御質問についてお答えいたします。

具体的に、その何回というのはちょっと今この場ではつきりとはお答えできませんけれども、通常は発注に当たって、まず決裁をもらいます。その際に、当然入札の担当とは協議をしております。ここでまずチェックの可能性がございます。そのほか、実際に正式に今度は支出負担行為を起こす場合、あるいは入札を進めるに当たりまして指名審査委員会、こちらのほうにも諮っております。そのほか最終的に入札の結果、それから契約の締結、そういったことで4回、5回程度は内部でチェックする、まあ担当の課以外の課の入札担当であるとか、さらに幹部の職員の目に触れる機会があるという状況でございます。

○議長（小松穂積） 佐藤副市長

【副市長 佐藤博 登壇】

○副市長（佐藤博） 小野議員から、今回の背景として、人事異動なりというふうなものが根底にといいますかね、底辺にあるんでないかというような御意見といいますか、お尋ねでございますけれども、我々とすれば、少なくとも今回の案件については、先ほど申し上げましたように本当のイロハのイで、多分、正直申し上げれば、教育委員会の担当者も完全に失念していたんでないかなと思ってございます。非常に、これ議会にかける案件なのか、例えば財産の取得についても、面積要件と、それから金額の要件ありますけども、これ当然どっちか引つかかればどっちなんだという話で、そういうやつはもうあちこちからこう話があって、ちゃんと確認して間違いなくせえよと言いますけども、これは本当に初歩中の初歩なもんですから、担当はもちろん、途中段階でも見過ごしてしまったという、ですから、それが突き詰めればどこに原因があるのかとなれば、まあ我が事としてね、その決裁なり何なりを見なかったといいますか、気づいたことは、まあ当然やってるだろうなという、他人任せだということにも言えるかと思えます。そういう点では猛省しなければいけないと思ってますけども、ただ、それがですね、そういう極めてどこの部署にあってもこれは関わる案件でございますして、何も財政の入札契約担当でなくても、市役所職員といいますか、自治体の職員であればどこに行ってもこれは、真っ先に教えられるといいますか、覚えなければいけない案件でありますので、そういった点につきましては、少しその人事異動云々っていうことではないのかなというふうに思っております。

もちろん様々な人事の異動、毎年、組織、限られた人材の中で、組織のパワーを最

大限発揮するためには、市民の負託に応えるってことでどうすれば、どういう部署にどういう人材を配置して、どういう体制で1年間仕事、事務事業をやれば、一番そのパワーを発揮できるかというふうなことを考えながら人事をやっているわけでありまして、時と場合によっては、それが本人の意にそぐわない異動になることもそれは当然あるかと思えます。もちろんその前段で様々な希望は聞きますけども、我々としては、多少、キャリアアップを図るために少し今までの担当とは違うところを経験してみろと、いずれ将来的にはそれが必ず役に立つはずだからというふうな思いでやっている部分もございまして、それが異動を受けた職員と、ややもすれば意思疎通が十分でない可能性もあります。私、必ず異動して新しく行くところについては、新規の採用職員はもちろんで、新規の管理職のときには、異動のときはもちろん、1か月ぐらいたってからまた呼んで、何とだっという話は聞いてますけども、それでも多少のミスマッチということは当然起こり得る話ですので、そこら辺はこの後も十分意を用いて、こちらの意図と本人が受ける思いがずれないように、そこは十分配慮していきたいと思えます。今回の案件については、それとは直接的にっということは我々では考えてございません。

なお、小野議員の御答弁をお借りして大変恐縮ですけども、先ほど三浦議員のほうから、補助金の話ですけども、あくまで今回のこの追認の議案につきましては、行政手続の瑕疵を後から追認の形で正常に戻すということですので、今回この議案をお通しいただければ、補助金については受けられるということになりますので、それを1回全部チャラにして新たにもう一回やり直すとなれば、これはおかしいだろうと、あと期限も間に合いませんしね、受けれなくなってしまうってことでございますので、ちょっと私、説明が舌足らずでございましたので、改めておわびして追加で答弁させていただきます。

○議長（小松穂積） 再質疑ありませんか。

○14番（小野肇議員） 終わります。

○議長（小松穂積） 14番小野肇議員の質疑を終結いたします。

ほかに質疑ありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。本件については、会議規則第37条第3項の規定により、委員会への付託を省略いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長(小松穂積) 御異議なしと認めます。よって、本件については、委員会への付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

(「なし」と言う者あり)

○議長(小松穂積) 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

これより議案第71号を採決いたします。本案は起立により採決いたします。本件について原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(小松穂積) 起立全員であります。よって、議案第71号は、原案のとおり可決されました。

日程追加の件

○議長(小松穂積) 次に、お諮りいたします。ただいま市長より議案第72号及び第73号が提出されました。この際、本2件を日程に追加し、一括して議題といたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長(小松穂積) 御異議なしと認めます。よって、本2件を日程に追加し、一括して議題とすることに決しました。

日程第3 議案第72号及び第73号を一括上程

○議長(小松穂積) 日程第3、議案第72号及び第73号の人権擁護委員の推薦についてを一括して議題といたします。

提案理由の説明を求めます。菅原市長

【市長 菅原広二 登壇】

○市長(菅原広二) ただいま議題となりました、議案第72号及び議案第73号の人権擁護委員の推薦について、提案理由の御説明を申し上げます。

議案第72号は、本市人権擁護委員の大高廣昭氏が本年12月31日をもって任期満了となることから、その後任として武田英昭氏を推薦したいというものであります。

議案第73号は、同じく人権擁護委員の渡部恵子氏が本年12月31日をもって任期満了となることから、引き続き同氏を推薦したいというものであります。

皆様の御賛同を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（小松穂積） これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。本2件については、会議規則第37条第3項の規定により、委員会への付託を省略いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、本2件については、委員会への付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

これより議案第72号人権擁護委員の推薦についてを採決いたします。武田英昭氏の人権擁護委員の推薦については、異議なしとすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、議案第72号は、異議なしとすることに決しました。

次に、議案第73号人権擁護委員の推薦についてを採決いたします。渡部恵子氏の人権擁護委員の推薦については、異議なしとすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、議案第73号は、異議なしとすることに決しました。

日程追加の件

○議長（小松穂積） 次に、お諮りいたします。ただいま議会議案第18号が提出されました。この際、本件を日程に追加し、議題といたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、本件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

日程第4 議会議案第18号を上程

○議長（小松穂積） 日程第4、議会議案第18号教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合引上げを求める意見書についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件については、会議規則第37条第3項の規定により、提案理由の説明及び質疑並びに委員会への付託を省略いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、本件については、提案理由の説明及び質疑並びに委員会への付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

これより議会議案第18号を採決いたします。本件については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、議会議案第18号は、原案のとおり可決されました。

教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合引上げを求める意見書

学校現場では、貧困・いじめ・不登校・教職員の長時間労働など解決すべき課題が山積しており、子供たちの豊かな学びを保障するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。豊かな学びや学校の働き方改革を実現するためには、加配教員の増員や少数職種の配置増など教職員定数改善が不可欠です。

2021年の法改正により、小学校の学級編制標準は段階的に35人に引き下げられているものの、今後は小学校に留まることなく、中学校・高等学校での早期実施も必要です。加えて、きめ細かい教育活動を進めるためには、さらなる学級編制標準の引下げ、少人数学級の実現が必要です。

秋田県においては、厳しい財政状況の中でも、一人一人の子供に教職員の目を行き渡らせるため、独自の少人数学級を実施しているところですが、豊かな子供の学びを保障するための財源は、本来国が負担するべきと考えます。

よって、国会及び政府におかれては、地方教育行政の実情を十分に認識され、地方自治体が計画的に教育行政を進めることができるように、下記の措置を講じられるよう強く要請します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

記

- 1 子供たちの教育環境改善及び教職員の働き方改革並びに長時間労働是正のために、加配教員の増員や少数職種の配置増など教職員定数改善を推進すること。また、中学校・高等学校における35人学級を実施すること。
- 2 自治体で国の標準を下回る「学級編制基準の弾力的運用」の実施ができるよう、十分な加配措置を行うこと。
- 3 教育の機会均等と水準の維持向上を図り、地方財政を確保するため、義務教育費国庫負担割合を引き上げること。
- 4 新規採用を持続的に確保し、専門性を発揮し意欲を持って働くことができるよ

う、教職員の待遇改善に必要な財源措置を講ずること。

- 5 新卒者の就業機会や教職員の年齢構成バランスの確保等の観点を十分に考慮し、全ての自治体で定年引上げ期間中に教職員の安定的な新規採用ができるよう、定数加配措置をはじめとした必要な財政措置を講ずること。

令和6年9月25日

秋田県男鹿市議会

議長 小松 穂 積

衆議院議長	額賀 福志郎	殿
参議院議長	尾辻 秀久	殿
内閣総理大臣	岸田 文雄	殿
財務大臣	鈴木 俊一	殿
総務大臣	松本 剛明	殿
文部科学大臣	盛山 正仁	殿

日程追加の件

- 議長（小松穂積） 次に、お諮りいたします。御配付いたしております議員派遣の件を日程に追加し、議題といたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

- 議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、本件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

日程第5 議員派遣の件

- 議長（小松穂積） 日程第5、議員派遣の件を議題といたします。

地方自治法第100条第13項及び会議規則第166条の規定により、御配付いたしておりますとおり、議員を派遣することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

- 議長（小松穂積） 御異議なしと認めます。よって、配付いたしておりますとおり、

議員を派遣することに決しました。

以上で、本日の議事は終了いたしました。

これにて9月定例会を閉会いたします。

大変お疲れさまでございました。

午後 3時36分 閉 会

会 議 録 署 名 議 員

議 長 小 松 穂 積

副 議 長 船 木 正 博

議 員 吉 田 洋 平

議 員 蓬 田 司